

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念5項目を作成し、個々の生活歴、価値観を尊重し、日常生活の中で地域社会と交流を深め、より楽しい生活が営める様に支援している。</p>	○	<p>住み慣れた地域で、出来る限り地域の行事に参加する等して、楽しくなごやかに生活できるよう支援し、基本理念にも組み込んでいる。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>各フロア、常時目につく所に掲示している。毎朝の朝礼で確認したり、毎月のカンファレンスにて理念に基き取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居面接時に明快に説明している。地域行事にも参加したり、外出する機会も設けており楽しい生活が出来る様に取り組んでいる。</p>	○	<p>家族会、運営推進委員会、誕生会、クリスマス会、夏祭り等を行う際に、出来る限り家族の方々、近所の人たちに参加してもらいグループホームの暮らす様子をバイキングをしたり食事をしながら話し合っている。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>出、退勤時の挨拶をする事で周囲の方々に良い印象をもって頂いている。又、近所の住民の方から野菜、お米等たくさんあるからといって戴くこともある。</p>	○	<p>日常的なつきあいとしてちょっとよってきて施設でお茶を飲んで行ったりとか、地域の夏祭り、秋祭りなど、行事を行う際に出来る限り参加し、こちらも参加できる地域活動に積極的に取り組んでいる。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域行事に参加したり、施設での大きな行事には、地域の方々に参加して頂く事で交流をはかっている。</p>	○	<p>夏祭り、クリスマス会など、地域の人々に連絡をとり、参加して頂き、ボランティアの方々、老人会の方々に協力を得て、腹話術、銭太鼓などを披露している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	○	<p>老人会を通して高齢者の介護予防体操の指導に 行くよう話し合っている。 (地域高齢者の生活相談業務の取り組み)</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>在宅生活に少しでも近づけるよう、又、細かな ケアが出来るように努力をしている。又、役員 会、家族会、運営推進委員会でも話を出して協力 を得たい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	○	<p>運営推進委員会を二ヶ月に一回開催し、役員、 民生委員、家族会の人たち、地域の住民らと話を して意見交換しており、夏祭り、クリスマス会等 に参加していただいて、その時にもいろいろと話 をして意見をいただいている。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>	○	<p>権利擁護委員会を20年度に立ち上げる準備をし ている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>虐待防止委員会を20年度に立ち上げる予定をし ている。勉強会は月一回行って意見交換してい る。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>申し込み時、契約時と説明する都度、疑問点については了承、理解を得るよう丁寧に話す。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を悪くしないよう慣れて頂きながら異動している。しかし、出来る限りしない努力をしている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の方へ積極的に参加してもらっている。必要に応じて新任研修から介護計画、介護ケア等に関する研修にも出来る限り参加している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回の連絡協議会に1~2名参加している。又、他施設の夏祭り、その他の祭りにも交流する機会がある。活動を通じて意見交換した事を、カンファレンス等で報告し、質の向上をはかっている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な休みを設けている。 年に数回の親睦会を行い、楽しむ事でストレスの緩和に努めている。		
22 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職員個々の努力、実績勤務状況、働き方、接し方など把握するよう心がけ、各々の仕事に対する思いをきく機会を設けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期においては、本人の状態や心情を理解しながら、安心感を与える事により信頼を得る様努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時等、家族の要望を聞き入れている。対応方法の詳細な説明をし、家族に理解を頂いている。</p>	<p>○</p> <p>職員は家族の信頼を得ることの重要性を認識している。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の要望をしっかり受容している。今、必要なサービスを見極めていくため様々な観点で対応している。</p>	<p>○</p> <p>アセスメント時に再確認し、今、何が最も必要かをカンファレンスしている。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前、カンファレンスにて、本人と家族の希望サービスの方法を協議する。入所前、本人が施設を見学する。</p>	<p>○</p> <p>体験入所、見学等全ての対象者に行っている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>同じ目線に立ち、寄り添う事で話しやすく信頼関係を築けるように努力している。食事を作っている時、利用者の方からアドバイスをいただく時もある。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	面接の際等において、家族の利用者への想いを聞き入れ、共に話し合い分かち合えるように関わっている。	○	面会時には必ず現状報告をして、家族と利用者との思いを伝え、信頼関係を築くよう努力している。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設行事には家族の方にも声かけ、共に楽しんで頂き、親しみを深めていけるように努力している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙、ハガキを用いて、馴染みの関係が途切れない様配慮している。クリスマス会、誕生日会等には必ず参加して頂いている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングでの会食、雑談、レクリエーション等に参加して頂いている。話題をもちかけ、楽しいひとときを過ごしていただいている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の利用者の状態は気にかけている。お見舞い等にも行かせてもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者に希望に尋ね、意見表示を促している。困難な方々の場合は、メモ書きや口の動き等、相手に分かりやすく伝わる様に工夫している。</p>	<p>○</p> <p>利用者の思いを尊重しケアプランに反映するようにしている。 センター方式を使用して、本人や家族の思い、可能性を大切に本人中心のケアのあり方に取り組んでいきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>初回面接や家族の面会のある際は、生活歴やこれまでの暮らしぶりを聞いています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>ケアプランをもとに一人一人の生活を把握しています。又、個々の特性に合わせ柔軟に対応しています。</p>	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の思いを聞き、(センター方式)使用課題(ニーズ)については双方が話し合いケアの方針を決めています。</p>	<p>○</p> <p>センター方式を利用者に記入不可能な人については聞き取り代筆しています。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態に変化が生じた場合は随時カンファレンスを行い、介護計画を見直しています。</p>	<p>○</p> <p>変化を生じた場合 医師及び家族の意向を反映できるケアプランの作成してケアに取り組む。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録(ケース記録、モニタリング)等々には詳細の記入しています。又、スタッフ全員が共有するよう勤めています。モニタリングカンファレンスにおいて見直しています。	○	カンファレンス、モニタリングの継続
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の能力、状態に沿ったプランをたて支援しています。機能に合わせてフロア移動等の対応にて行事、レクリエーションを行っています。	○	フロア移動、デイサービス参加等も継続していく。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市、あったか相談員受け入れています。行事においては演芸、踊り等のボランティアの来訪もあり、時々有効な活動を依頼しています。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の体調変化時、家族の意向等常に尋ねています。必要に応じて次の相談窓口等の紹介も行っています。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の住所地の市役所や地域包括支援センターとの連携がとれるよう情報交換を行っています。	○	人権擁護委員会 20年度たちあげ予定 カンファレンス時、勉強会実施してます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>家族との相談を密にし引き続き現行継続していく。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>平成19年9月より月2回の定期往診と看護師の巡回を継続している。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>入院時には施設でも生活状態、ADL状況を連絡し入院先からは現状の報告も受けています。利用者見舞いという形で本人の状態も観ています。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>施設での対応が難しくなった場合については家族に説明をし了承を得る。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>体調に変化があれば、都度話し合いプランを変更する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移住の際には施設での生活が先方に理解できるよう説明し、書面等でも連絡しています。先方の面接等にも応じています。		
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に共同の場ではプライバシーに配慮し声かけをしている。必要に応じて記録等は、本人、家族の了承を得て公開するようにしている。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	余暇時間、レク等においては利用者の希望を優先している。又、バイキング、誕生日会等のメニューについても希望を聞いている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースや生活リズムを把握し、出来る限り本人の希望に沿った一日を過ごせるよう配慮している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時に声かけしている。自分で選べない利用者については声かけしながら行っている。	○	自立していない利用者に対しての働きかけを続けていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>バイキング、誕生日会等の継続。月曜と木曜の昼食メニューまかないメニューし利用者の希望も尋ね好みのものが提供できるよう努めている。一緒に同じ者を食べている。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>加齢に伴う体力低下を考慮し、日中横になる時間も設けられるよう支援する。</p>
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>家族との外出に向けての支援</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者毎に手持ち、事務所管理と差はあるが持っていてもらっています。買い物の際にはその中から支払うようにしています。又、立替払いという利用者もありますが、必要範囲内での買い物とするよう支援しています。	○	買い物時にはスタッフが必要範囲内で買い物するよう支援しています。又、随時家族に報告しています。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を聞き、職員が話し合った上で買い物(スーパー、コンビニ)に同行しています。家族にも協力を得て、安心して過ごせるよう支援している。又、モーニングに行ったりもしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事とし、ドライブ、遠足等を行っています。家族の協力を得て、墓参り、自宅へ帰るといった利用者もあります。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じ、希望があれば対応しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に面会できるよう心掛けています。時間に関しても柔軟に対応しています。面会時には現状を話し、次回の面会の依頼も行っています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する勉強会を行い、スタッフが認識するよう努めています。各々のケアについても、その人らしさを考えかかわるよう話し合い取り組んでいます。	○	その人らしさを考える生活を支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室の鍵はかけていません。利用者が自由に出入りできるようにしている。利用者がでて行きそうな時は一緒にベランダ、屋上等に同行して行き自由に暮らせるよう支援している。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともスタッフが全利用者の状況が見える位置に居よう心掛けています。特に不穏時の行動については観察し同行するようにしています。	○	昼の状況観察しながら、不穏の時は同行する。夜巡視をしながら、トイレの電気が点けばそつと様子を見に行く。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の能力に応じ管理しています。 (ハサミ、化粧品等)	○	その人の状況に応じて保管場所の確認をしている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状況の把握、ケアに努めています。ヒヤリハット、事故報告書、カンファレンス等において、スタッフが確認すると同時に、カンファレンスを行っています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時マニュアルを作成してます。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、防火訓練を行っています。カンファレンス時再確認しており、職員全員が周知している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用当初から起こり得る事故に関しての話はしています。対応についても相談しています。機能を生かし、可能な限り自分の事は自分で行えるよう支援しています。	○	家族への報告、説明は密に行う。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕のバイタルチェックの実施。 日常の行動でちょっと変、ちょっとおかしいという事への気づき、報告・相談の実行。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬については全スタッフが認識するようケース記録に処方箋をファイルしています。カンファレンス時に確認しています。	○	往診時新たに処方された薬の理解(スタッフ全員)連絡帳にて報告しており、認識するよう努める。
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	軽運動、廊下歩行の実施。 排便チェック。自然排便の無理な対象者には医師と相談。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、うがいの励行。 歯磨きの必要な人・・・歯磨き、義歯洗浄と個々の状態に合わせ声かけ、介助しています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、記録しています。摂取量が少ない人については医師に相談し、補助食品を使用しています。水分についても少量ずつ何度にも分ける、好む飲み物を用意する等行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルの作成。日々の手洗い、うがいの励行、予防接種の実施、周辺施設の情報収集等行っています。	○	勉強会の実施。スタッフ一人一人の認識の確認をする。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理具の消毒、乾燥を実施し、食材の先入れ、先出しの確認を徹底して行う。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、施設周辺等には花を植える。利用者が書き上げた表札をあげる等工夫し、誰にも親しみやすい雰囲気づくりにとりくんでいます。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を取り入れ、玄関、リビングには季節の植物、花を置く。立地条件から居ながらにし、季節を感じ取れる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、和室等居室以外でも一人で過ごせる場所がある。又、自室でゆっくり一人で過ごすことも可能である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時の馴染みの物を持参していただくと共に、自室には馴染みの物の持込みもしていただいています。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、空調には留意しています。温度計(各室)、湿度計(リビング)を置き、体感だけで調整しないように注意しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の機能に合わせ杖、老人車、手すりを利用いただいています。排泄についても自立度により見守り、介助等行っています。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各々が理解できるよう目じるしとなるものを置いています。又、さりげない誘導をすることを心掛けています。		見当識障害への対応を行う。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	家庭菜園、花壇等に活用している。ベランダにはプランター植木鉢等に植物を植え世話をしている。又、歩行、外気浴等に利用している。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族との信頼関係を構築した上での個々の利用者にとって、よりその人らしい生活の支援。
 個々の能力に応じた余暇活動。
 身体機能の維持(軽運動、嚥下体操)。
 認知症の進行に伴う全ての機能(特に精神面)低下に対する柔軟な対応。